

ヒリュウ台利用の高しょう系ポンカンの特性

高しょう系ポンカンにヒリュウ台を用いると、カラタチ台に比べ樹冠拡大は遅いが、樹高は抑えられ低樹高化が図れる。果実品質はカラタチ台と差はなく、一樹当たり収量は少ないが、単位樹冠容積当たりの収量は多い。

農業研究センター天草研究所 (担当者: 奥田良幸、古川珠子)

研究のねらい

天草地域の特産果樹であるポンカンは樹勢が強く、比較的喬木である。そこで、果樹農家の高齢化に伴い管理作業の省力及び軽労働化を図るため、ヒリュウ台（矮せい台木）を用いたポンカンの低樹高化栽培技術を確立する。

研究の成果

1. ヒリュウ台はカラタチ台より樹高で7割、樹容積で5割、幹周で7割程度小さい（図1～3）。
2. 果実品質については、台木による差はみられない（図4）。
3. ヒリュウ台の一樹当たりの収量はカラタチ台より2割程度少ないが、単位樹冠容積当たり収量は1.5倍程度多い（図5、6）。
4. 高しょう系ポンカンにヒリュウ台を用いると、樹冠内の無効容積が少なく単位樹冠容積当たり収量は多くなる。また、樹高が抑えられるため低樹高化が図れる。

普及上の留意点

1. ヒリュウ台は樹冠拡大が遅く、結果するとさらに抑制されるため、未結果期に十分樹冠拡大を図る必要がある。
2. ヒリュウ台は着果過多になりやすく樹勢が低下しやすいので適正着果に努める。

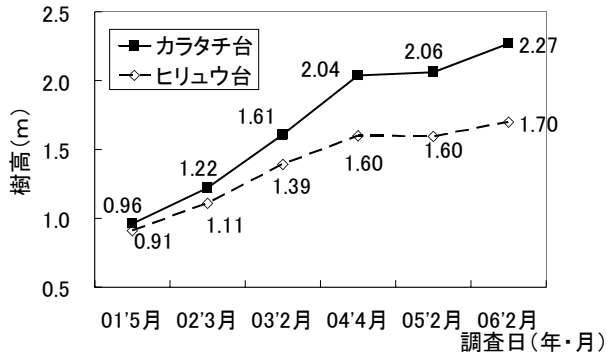


図1 台木別樹高の年次推移

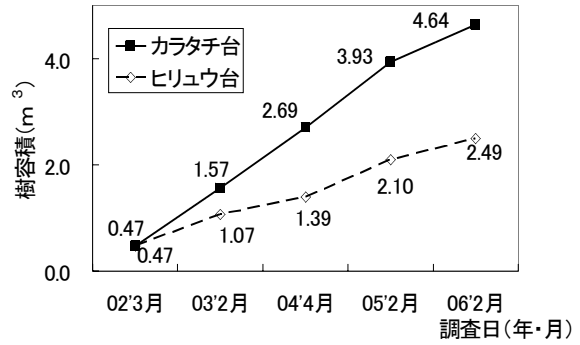


図2 台木別樹容積の年次推移

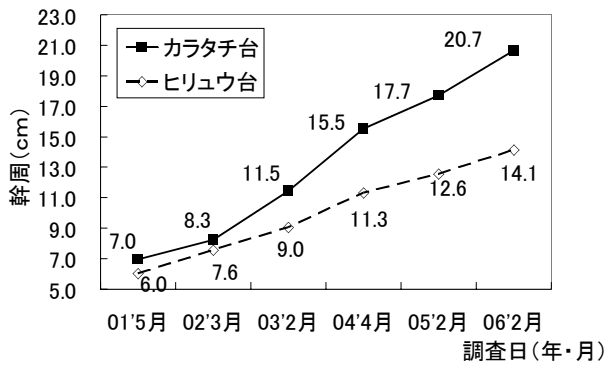


図3 台木別幹周の年次推移

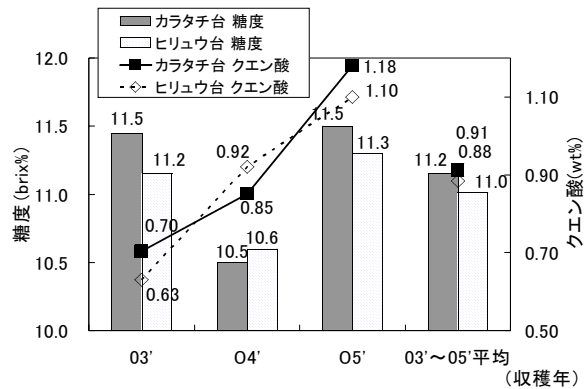


図4 年次別果実品質(12月中旬収穫時)

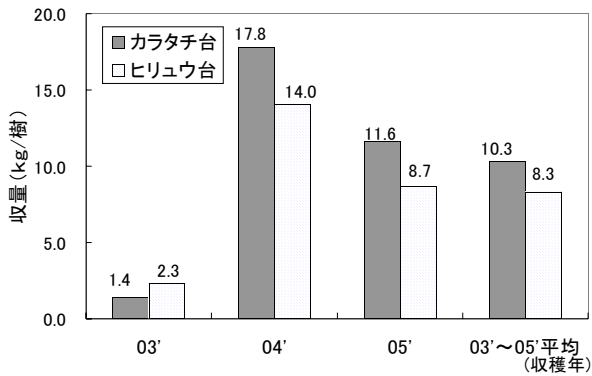


図5 一樹当たり収量の年次推移

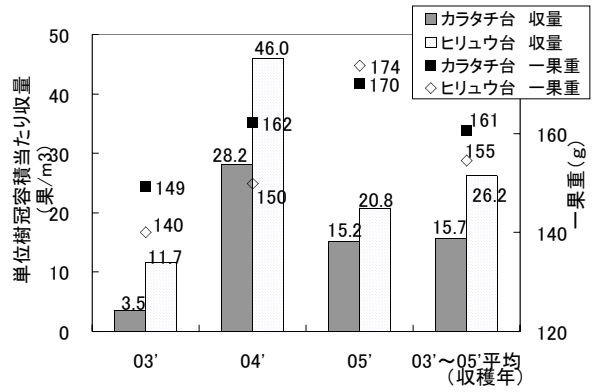


図6 単位樹冠容積当たり収量の年次推移



左：ヒリュウ台 右：カラタチ台

写真1

ヒリュウ台とカラタチ台の高しょう系ポンカン